

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	平成29年度第4回武蔵村山市自立支援協議会
開 催 日 時	平成29年11月14日（火） 午後1時30分 ～ 午後4時
開 催 場 所	市民総合センター3階 集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：栗原 玲子、柳 清美、岩瀬 香世、梶原 勲、押田 友紀子、網代 栄一、田野倉 英樹、佐々木 久子、平良 保司、榎本 勝、諏訪潤、利根川 正、高橋 毅 欠席者：椎木 俊秀、大沼 眞弓、馬場 均、須永 美智子、宮澤 ひとみ、加納 敏、小泉 久美子、平 政隆 事務局：松下課長、齋藤主査、石川主査、石川主事、齋藤主事、樋口主事、株式会社名豊 渡邊氏
議 題	1 報告事項 （1）平成29年度第3回武蔵村山市自立支援協議会会議結果について （2）サービス事業者部会等の報告について （3）プロジェクトチームの報告について （4）その他 2 議題 （1）武蔵村山市第四次障害者計画・第五期障害福祉計画策定について （2） その他
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	議題1について：武蔵村山市第四次障害者計画・第五期障害福祉計画について確認。平成29年度第5回自立支援協議会で正式決定を行う。 議題2について：ヘルプバンドナについて確認。引き続き検討を行う。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） ●会長 ○委員 ■事務局	●会議を始める前に、配布物の確認を事務局より願います。 ■事前に配布したものが4点と、本日配布したものが5点である。 ●自立支援協議会を開会する。事務局より平成29年度第3回武蔵村山市自立支援協議会会議結果について報告を願います。 1 報告事項 （1）平成29年度第3回武蔵村山市自立支援協議会会議録結果について ■事前に会議録を配布したところ修正等の意見が無かったため、その会議録を正式なものとする。 （2） サービス事業者部会等の報告について ●まずは日中活動系サービス事業者部会より報告を願います。 ○10月に開催。去年から引き続き行っている各事業所の見学会についての報告を行った。その後、各事業所の意見交換を行い、平成29年に新設された事業所で欠員が出ているということが分かった。

●何か意見、質問はあるか。
ないようなので、次に居住系サービス事業者部会より報告をお願いします。

○10月に開催。情報交換の中で、居住系サービスにおいても平成30年度から第三者評価が行われるということが話の中心であった。
部会の活動としては各福祉事業所の情報を載せるボードについて話し合った。随時各事業所を訪問する予定であるが、詳細については今後も部会で協議していく。

●何か意見、質問はあるか。
ボードの件で各事業所に伺っていくということであるが、日程などについてはおさえてあるか。

○これから調整していく予定である。

●各事業所においても協力をお願いします。
次に相談支援サービス事業者部会より報告をお願いします。

○9月に開催。各事業所の報告、障害者計画・障害福祉計画についての意見交換、社会資源台帳の作成報告、事例報告を行った。

●何か意見、質問はあるか。
社会資源台帳については作成済みか、または途中なのか。

○作成途中である。作成の段階で色々な課題が浮き彫りになってきており、協議中である。できるだけ早く作成するつもりである。

○社会資源台帳については一般の市民にも配布するものなのだろうか。配布する場合は分かりやすいものにしてほしい。

●今後の部会で協議を重ねていくことをお願いします。
次に放課後等デイサービス事業者部会より報告をお願いします。

■本日は部会長の平委員が欠席のため、事務局より報告する。
9月に開催。防災に関して各事業所で意見交換を行った。今後の取組として、学習会について協議を行った。保護者にも参加してもらおう予定である。特別支援学校や病院の職員に講師をお願いするなどの意見が出た。今後も協議を重ねていく予定である。

●何か意見、質問はあるか。
「妖精の杜」は最近開設された事業所か。

■今年の3月に開設した事業所である。

(3) プロジェクトチームの報告について

●次はプロジェクトチームの報告に移る。障害者のくらしを考える部会より報告をお願いします。

○1 1月に開催。防災について、地域福祉課と防災安全課の職員を講師に招き、出前講座を行った。武蔵村山市の防災対策について講義を行い、その後、質疑応答を行った。質問等については事前に募集していたものを答えてもらった。後日、詳しくまとめたものを改めて提出する。今後も学習会の開催を行っていきたいと思っている。

●何か意見、質問はあるか。
今回開催された学習会は何名参加したか。

○2 2名参加した。

●避難行動要支援者支援制度に登録している市民は何名いるのか。

■登録している方は約2200名おり、毎年600名ほどの移動がある。

●この制度をもとに災害時の要支援者の名簿を作ると思われるが、地域の民生委員は名簿を持っているのだろうか。

■民生委員は名簿の所持を断っている。

●その場合、誰が情報を持っているのか。

■障害者については障害福祉課が所持している。

●自治体では民生委員がそういった役割を担うはずである。今後の課題として考えてもらいたい。

次に障害者のはたらくを考える部会より報告をお願いする。

○障害者の職場体験実習について協議を行った。日程は1月から5週にわたって、週1日実施し、計5日の予定である。参加者は公募ではなく、障害者就労支援センターとらいの登録者等から募る予定である。

●何か意見、質問はあるか。
実習ではどういった作業を行っていくのか。

○1つ目は特別養護老人ホームで利用者の衣服類の洗濯とそれらを畳み、利用者に返すためにまとめる作業。2つ目は館内の掃除で、トイレ、廊下、教室、理事長の部屋を予定している。その人に合ったプログラムをその都度考えていきたいと思っている。

●先日行われたインターンシップでも言えることであるが、職場の実習というのは障害者の就職にとっては良いプログラムになると思う。良い成果を出してもらえたらと思う。

(4) その他

●事務局より何か報告等はあるか。

■配布資料について説明する。

・障害福祉サービスと介護保険サービスとの違い…前回の自立支援協議会

で配布したものに誤りがあったため、修正したものを改めて配布した。

- ・ウォーキングマップ…武蔵村山市の健康増進計画に基づいて作成した地図である。
- ・心身障害者(児)グラウンドゴルフ教室チラシ…3月17日に総合体育館で開催される。障害の有無にかかわらず参加でき、人気の高まってきているスポーツである。興味にある方への周知をお願いする。
- ・超高齢社会における障害者と家族…「都と地域の協議会活動の双方向性を強化し、東京都における地域課題を考える」をテーマに行うセミナー。
- ・お伊勢の森通信…一般相談の件数が伸びていないため、情報提供用として配布した。
- ・ふっさ ヘルプバンダナの配布について…議題(2) その他で協議させていただく。

2 議題

(1) 武蔵村山市第四次障害者計画・第五期障害福祉計画策定について

●武蔵村山市第四次障害者計画・第五期障害福祉計画策定について事務局より説明をお願いする。

■(資料1に基づき説明)

●何か意見、質問はあるか。

6頁に新たに追加されている特定健康診査等実施計画・データヘルス計画とはどういう計画か。

■特定健康診査等実施計画とは特定健康診査の結果をもとに、どういった予防をしていくかを市全体で行っていく計画である。データヘルス計画とは診療内容についてすべてデータ管理ができるようにし、予防に生かしていく計画である。健康推進課、高齢福祉課、国民健康保険の担当部署が作成している計画であり、詳細については把握できていない。

●何か意見、質問はあるか。

○17頁の意思疎通支援からボランティア団体が行っている点訳について削除したのはどういう理由からか。

■障害福祉計画は市としての計画であり、ボランティア団体が活動しているということは把握しているが、活動内容については把握できていない。また、市として支援を行っていないことから、計画に記載することで市の事業と捉えられる可能性があるため削除させていただいた。

○市報などを点訳していると思うが、市として支援していくということは無いのか。

■現在は特にしていない。市の取組として何か働きかけを行っていれば、引き続き掲載させていただいた。

●こういった形でもいいので何かしらの支援を行ってほしい。

○どの程度の視覚障害者の方が点訳されている市報を読んでいるのかは分からないが、せつかく市民の方々が行っていることなので後押しが出来れば良いと思う。そういった要望はないのか。

■障害福祉課ではそういった要望はいただいている。

●何か意見、質問はあるか。

前回の修正から56頁に武蔵村山市の就労移行支援事業所についての文言が追加されたがあかつきコロニーのことか。この事業所の就労移行率を3割以上と言うことか。

■そのとおりである。

○56頁の地域生活拠点等の整備について平成32年度末までに整備とあるが、自立支援協議会を通して検討を行っていくのか。それとも、既に具体的な方針が出来ているのか。

■地域生活支援拠点等の整備については、整備を行っていくべきものであり、自立支援協議会で意見を伺うべきことでもある。また、武蔵村山市だけでは作れないようであれば、近隣の市町村と連携して作っていく。今現在ではスケジュールなど具体的なものは決まっていない。

●何か意見、質問はあるか。

○障害者の暮らしを考える部会で防災について話しあった時に、要支援者の名簿をどこが所持しているのかという話があり、高齢者の場合は包括支援センターにあるが、障害者の場合は自治会なのか、民生委員なのかははっきりしていない。地域生活支援拠点の5つの機能からすると市としてももう少し考えて取り組む必要があると思う。高齢者に包括支援センターがあるように障害者に対しても地域ごとに助けるシステムがあるといいと思う。

○東京都社会福祉協議会の中の地域自立支援協議会の交流会が8月にあり、地域生活支援拠点のプロジェクトについては昭島市が音頭を取っていたと思う。圏域で行っていくというのであれば、他市の協議会との交流会は情報収集に繋がっていくのではないかとと思う。

■了解した。

●何か意見、質問はあるか。

70、71頁の地域生活支援事業の説明の中で、基幹相談支援センターを平成32年度までに検討とあるが、相談支援事業の根幹に関わるものであり、23区では設置が進んでいる。市部では区部と比べると設置している自治体は少ないが、設置している自治体もある。福生市や羽村市は来年度か再来年度に、実際に福祉計画に数値を載せると聞いている。武蔵村山市としてはどの程度の検討なのか、平成32年度までに設置に向けて気運が高まっていくのか、他の状況を見ながらもう少し先のこととして考えるのか、その辺りの話を聞かせてもらいたい。

■基幹相談支援センターの役割ということで記載しているが、相談支援業

務を総合的に実施するという一方で、現在についても困難事例に対しケース会議等を開いて対応している部分もあるが、そういったことにスピーディーに対応するために、基幹相談支援センターの設置が望ましい。しかし、設置する上で人的な配置に考慮が必要なことや施設についても整備をしていかななくてはならないので、財政当局と折衝していかなければならない。そういった部分について計画を立てていくという意味合いでの検討としている。

●何か意見、質問はあるか。

ちなみに専門用語の注釈のようなものはあるのか。

■注釈については、資料として、最後のページに載せる予定である。前回の自立支援協議会で指摘された用語などを載せていきたいと考えている。他に載せた方がいいという用語がある場合は障害福祉課までお願いしたい。

●今後のスケジュール確認をしたいと思う。市民説明会の開催やパブリックコメントの募集をしていくと思うが、どの時点で注釈を計画に入れるのか。その時点で注釈を載せた方がいいものを決めてもいいのではないか。

■今後のスケジュールについて、パブリックコメントは平成29年12月8日から平成30年1月9日までの期間で募集していく。資料については、市役所の市政情報コーナー、市民総合センター内障害福祉課窓口、緑が丘出張所、情報館えのきの4か所に設置をさせていただく。併せて市民説明会を実施していく。予定としては12月12日、12月16日の午前10時から市民総合センター、12月14日の午後7時から市民会館さくらホール研修室で開催する。

注釈をどの時点で載せていくのかということに関しては、パブリックコメントで意見を聴取するのは素案の部分までであり、注釈は含まれない。パブリックコメント、市民説明会で意見をいただいた後に再調整をし、平成30年2月15日の自立支援協議会で計画を正式決定とし、注釈をつけていく予定である。

●何か意見、質問はあるか。

○今回の計画の中で就労系サービスが取り上げられていて気になったのだが、サービス等利用計画を作成している中で、生活介護の利用を検討することが多く、より選択肢を広げるためにも、市内生活介護施設（の増設）についても取り上げていく必要があるのではないかという意見が出ている。

●60頁の生活介護の実績と見込量に関することだと思うが、利用者数ではなく事業所のこと、生活介護のサービスを他市に頼っているということについてでよろしいか。

■60頁のサービス見込量の確保のための方策のところでも記載させていただいているが、体制整備に努めていくつもりである。しかし、生活介護を開設したいという事業所がないのが実情である。

●何か意見、質問はあるか。

意見等がないようなので審議は以上で終了とする。

(2) その他

●何か検討事項はあるか。なければ、事務局から説明をお願いしたい。

■（配布資料 ふっさ ヘルプバンドナの配布についてに基づき説明）

●福生市のヘルプバンドナを武蔵村山市でも導入するかどうか協議していききたいということか。

■市として予算計上して作るということに限らず、障害者就労支援施設等で製作していただき、販売を行っていくということも含めて、委員の皆様から意見を伺いたい。

●何か意見、質問はあるか。

○同じものを作るのか、似たものを武蔵村山市で考えて、各作業所に発注するのか。

■同じバンドナにするか、缶バッチにするか、ベストのようなものにするかについては、市よりも委員の皆様で、それが障害者就労支援施設で作れるのかについても考えていただきたい。同じものを武蔵村山市で発注をかけるとういうことについては一つの考えとして検討していただき、協議してもらいたい。

○私はバンドナを製作する案に賛成である。災害時を想定して、目立つものの方が良い。東日本大震災で、「私は聴覚障害者です。」「手話ができます。」といったバンドナを巻いて、障害者の人が誰に頼ればいいのか分かりやすいようにしていたという話があり、同じようなものを作りたいと思っていた。

○私もバンドナを製作する案に賛成である。バンドナの大きさにもよると思うが、包帯の代わりに使うこともできるはずである。

○私もバンドナを製作する案に賛成である。可能であれば就労支援施設で仕事としてできれば良いと思う。

●就労支援施設での仕事とすることも可能だと思う。

■福生市のバンドナは市の職員がデザインしたものであり、デザイン料についてはかかっておらず、値段が1枚594円で、1000枚作ったので費用は59万4千円と伺っている。どういったデザインにするかということから、どの程度の費用で作れるのかを障害福祉課で調べ、また相談させていただきたい。

●何か他に検討事項等はあるか。

12月になるとパブリックコメントや市民説明会等がある。市のホームページの確認をよろしく願います。

